

# 大学と病院の連携による子育て支援の場における 看護職の機能の検討

## 地域ケア開発研究所周産期ケア研究センター

教授 <sup>やまもと</sup>山本 <sup>こ</sup>あい子、研究員 <sup>つきのきなおこ</sup>○槻木直子、<sup>いわくに あきこ</sup>岩國亜紀子

看護学部 教授 <sup>くどうよしこ</sup>工藤美子

高知大学大学院 准教授 <sup>あかまつめぐみ</sup>赤松恵美

## 兵庫県立尼崎総合医療センター

副院長兼看護部長 <sup>みのうらようこ</sup>箕浦洋子、看護業務専門員 <sup>すがのみねこ</sup>菅野峰子

看護師長 <sup>たちばなたかこ</sup>橘 貴子

### キーワード

乳児、子育て支援、看護職、大学と病院の連携

### 研究概要

**背景：**子育て中のママ・パパが、子どもや自分自身のことについて、看護職に気軽に相談できる場所は地域内にはあまりありません。そこで、常に看護職がいて、随時小児救急看護認定看護師、栄養士、歯科衛生士等にも気軽に相談できる子育て支援の場「るんるんルーム」を作りました。**目的/研究方法：**本研究では、看護職が子育て支援の場で果たしている機能を検討することを目的として、利用者である乳児の母親7名にインタビューを行いました。**結果：1)【養育者の些細な気がかりに応じる】**については、子どもの体を診ながら子どもに何が起きているのかを養育者に伝えること、子どもにとって効果的な関わりを見極めその関わりを養育者にして見せること、養育者が続けやすい対策を伝えること、気がかりに対して情報や知識を提供すること、**2)【子どもの成長発達を可視化させる】**については、子どもの成長を示す目安を伝えること、子どもの動きから発達を示すサインを伝えること、母乳分泌不足とわかる情報を提供することが、看護職が果たしている機能として挙げられました。これらは、実際に会って、子どもの様子や体を養育者と共に確認して相談に応じることで果たしていた機能でした。看護職はこれらの2機能を果たすために、積極的に親子と関わりつつ、養育者に話を振って話しやすい場を作ったり、感染を防ぐなど安全を確保したりすることで【養育者が『行こう』と思える場を作り出す】ことをしていました。また、親が気がかりを話しやすいように看護職が問いかけたり、話を聞く姿勢で臨んだり、継続的に関わることで【相談しやすい看護職として側にいる】ことをしていました。養育者は、看護職がいることを知って来所し始め、看護職が常時養育者との輪の中にいることで、気軽に相談しやすいと感じ、それがさらなる継続的な利用につながっています。

### アピールポイント

子育て中のママ・パパには、親同士で話す・相談することに加えて、専門家に気軽に相談したいというニーズがあり、本子育て支援の場は、これらの相談ニーズに対応できる場となっています。大学と病院が連携して企画・運営・実施する新しい子育て支援の場のあり方は、地域における新しい子育て支援の可能性を示していると思っています。